

## 金融制裁における Swift の利用と代替ネットワークの可能性

麗澤大学 中島真志

2022年3月に、ロシアのウクライナ侵攻に対する西側諸国の制裁として、ロシアの一部の大手銀行を Swift のネットワークから切断するという措置がとられ、世界的に大きな注目を集めた。この Swift 切断は、対象となるロシアの大手銀行が国際金融業務を行うことができないようにすることによって、ロシアの輸出入を抑制し、戦争の継続を困難にすることを目指したものであった。

本報告では、まず「Swift とは何か」を概観したうえで、「国際送金における Swift の利用方法」について整理する。そして、「なぜ Swift が金融制裁の手段として使われるのか」について考察を加える。

また、Swift を使えなくなったロシアの銀行が、代替ネットワークを通じて国際金融業務を継続する可能性について、①ロシア中銀が運営する金融メッセージングシステムである「SPFS」や、②中国人民銀行の人民元建てクロスボーダー決済システムである「CIPS」について、その機能と制約について検討を加える。

次に、Swift 制裁の効果について、輸出面と輸入面からみる。さらに、ロシアが制裁逃れのために新たな国際決済の手段を模索していることを、「暗号資産の利用」や「CBDC（デジタル・ルーブル）の導入」などの面から浮き彫りにしたうえで、これらの動きが、Swift 制裁を含む金融制裁がロシアの決済・金融インフラに一定の影響を与えている可能性を示唆していることを明らかにする。